

## 神奈川県内で発見された二種の日本新産ハラタケ目菌類

高橋 春樹

### Haruki Takahashi: Two species of Agaricales new to Japan, discovered in Kanagawa Prefecture

**Summary:** Two species of Agaricales, new to Japan, are collected in Kanagawa Pref., central Honshu, and described here with illustrations: 1) *Cortinarius bibulus*, forming a small, dark violaceous basidioma with a hygrophanous pileus and pale violaceous lamellae, was collected on the ground under *Carpinus tschonoskii* in Kawasaki-shi, Kanagawa-Prefecture; 2) *Entoloma farlowii*, having a small, vivid orange basidioma, was found on ground in Odawara-shi, Kanagawa-Prefecture. Japanese materials differ from North American *E. farlowii* in possessing much smaller (pileus 4-18 mm broad), reddish orange (not yellowish) basidiomata and forming slightly larger basidiospores (9-11.5 x 6.5-8  $\mu$ m).

神奈川県内で採集された二種の日本新産ハラタケ目菌類について、*Cortinarius bibulus* 及び *Entoloma farlowii* と同定されたので報告する。*C. bibulus* はヨーロッパに分布し、*E. farlowii* は北米南東部から報告されているが、両種とも日本では未記録の菌である。標本は神奈川県立生命の星・地球博物館 (KPM) に登録、収蔵されている。

1) *Cortinarius bibulus* Quél. 1881 (Synonym: *C. pulchellus* J. Lange; *C. americanus* A. H. Sm.).  
ヒメムラサキフウセンタケ (和名新称)

肉眼的特徴: 傘は径4-18 mm, 丸山形から平開し、しばしば中丘を具え、吸水性がある。表面は絹状~繊維状で、暗青紫色をおびる。肉は厚さ1 mm以下、表面と同色、無味無臭。柄は13-25 x 1.5-2.8 mm, 上下同大または根元がやや肥大し、中実。表面は絹状~繊維状、傘と同色。クモの巣膜は多量に存在し、繊維状、淡青紫色~灰白色、しばしば柄の中部に狭い帯状のツバを形成する。ヒダは幅2 mm以下、上生しやや疎、初め淡青紫色、のち錆色を帯びる。

顕微鏡的特徴: 胞子は8-11 x 5-6  $\mu$ m, 楕円形で小形の疣状突起に被われ、錆黄褐色。担子器は15-32 x

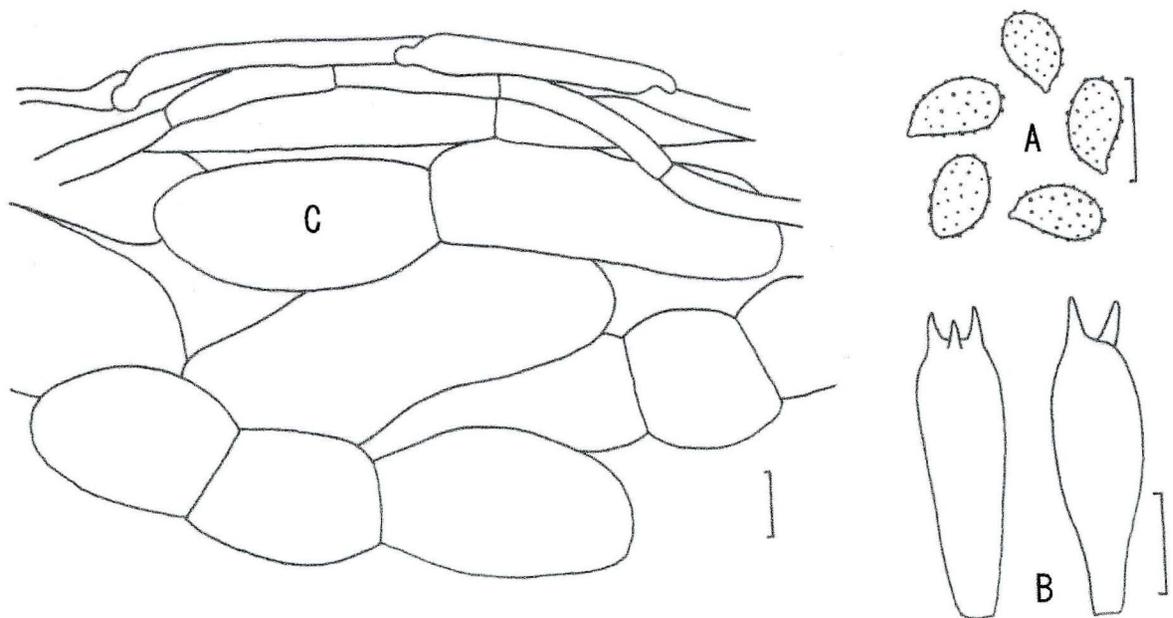


図1. ヒメムラサキフウセンタケ *Cortinarius bibulus*. A. 胞子; B. 担子器及び偽担子器; C. 傘の表皮組織. スケール: 10 $\mu$ m.

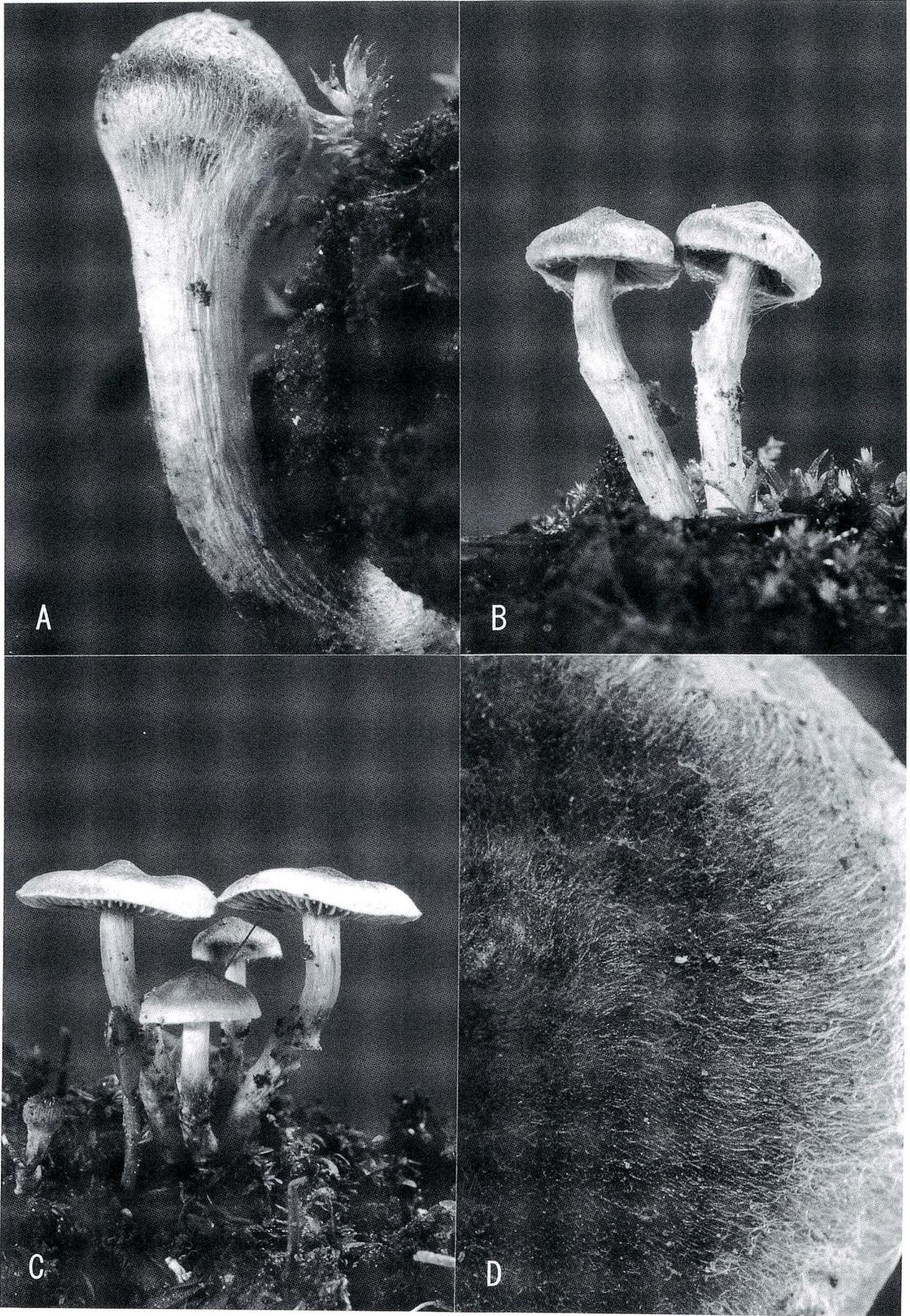


図2. ヒメムラサキフウセンタケ *Cortinarius bubulus* の子実体. A, B. 幼菌; C. 成菌; D. 傘の表面.

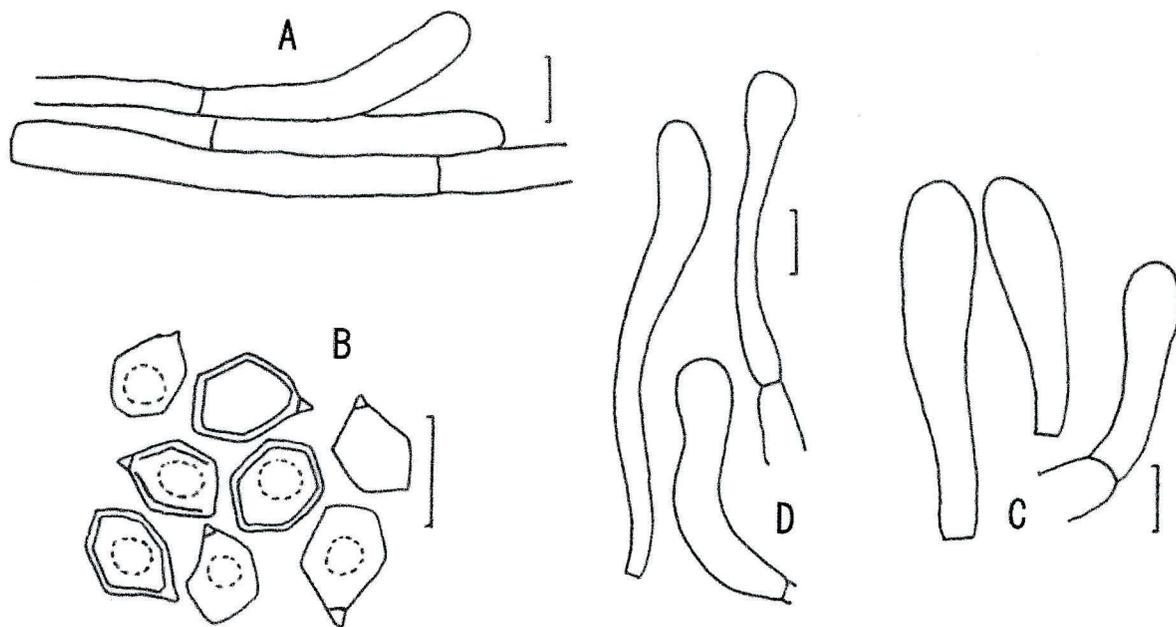


図3. ダイダイウラベニタケ *Entoloma farlowii*. A. 傘の表皮組織; B. 孢子; C. 縁シスチジア; D. 柄シスチジア. スケール: 10 $\mu$ m.

6.5-9  $\mu$ m, こん棒形, 2-3-4 孢子性。縁シスチジア及び側シスチジアはない。傘の表皮は2層に分化し, 最外層は径4-10  $\mu$ mの糸状菌糸が並列し, 内層は径17-30 $\mu$ mの肥大した菌糸からなり, 褐色の色素が厚さ1 $\mu$ m以下の細胞壁内に存在する。傘実質の菌糸は平行し, 細胞は円柱形で径4-15  $\mu$ m, 無色。柄の表皮は円柱形の菌糸が平行し, 褐色の色素が厚さ1  $\mu$ m以下の細胞壁内に存在する。柄シスチジアはない。偽担子器の基部, 被膜, 及び柄の組織にクランプがある。

供試標本: 神奈川県川崎市生田緑地, イヌシデの樹下の地上に群生, 2000年10月10日, 高橋春樹採集 (KPM-NC0008690)。

外観は小形のアセタケの仲間に類似し, 全体に暗青紫色を帯び, 傘の表面は繊維状で吸水性があるのが特徴である。日本産の標本は Breitenbach & Kränzlin (1995) 及び Brandrud *et al.* (1992) の記述によるヨーロッパ産の *Cortinarius bibulus* とよく一致する。属内ではツバフウセンタケ亜属 (*Telamonia*) *Hydrocybe* 節に置かれている。種小名は湿った状態を意味するラテン語で, 傘に吸水性があることを表している。

2) *Entoloma farlowii* (Sing.) Hesler 1967. (Basionym : *Rhodophyllus farlowii* Sing., *Farlowia* 2: 49. 1945.)

ダイダイウラベニタケ (和名新称)

肉眼的特徴: 傘は径5-25 mm, 丸山形から平開し, 中央部はへそ状にくぼむ。表面は平滑で, 鮮やかな橙赤色を帯びるが乾くと褪色し, やや吸水性があり, 粘性を欠き, 半透明の条線を周縁部に表す。肉は厚

さ0.8 mm以下, 表面と同色, 無味無臭。柄は25-50  $\times$  1-2.5 mm, 上下同大または下部に向かってやや肥大し, 中空。表面は平滑, 粘性を欠き, 上部から中部にかけて傘と同色, 下部は淡色で根元はほぼ白色。ヒダは幅3 mm以下, 直生~やや垂生, 初め淡橙色, のち肉色を帯びる。

顕微鏡的特徴: 孢子は9-11.5  $\times$  6.5-8  $\mu$ m, 5-6角形。担子器は25-45  $\times$  8-12  $\mu$ m, こん棒形, 4孢子性。縁シスチジアは27-60  $\times$  8-12  $\mu$ m, 群生し, こん棒形, 無色, 薄壁。側シスチジアはない。傘の表皮は匍匐性の糸状菌糸が並列し, 実質から明瞭に分化していない。菌糸細胞は径8-20  $\mu$ m, 無色~淡黄色。柄の表皮は無色~淡黄色の糸状菌糸が平行する。柄シスチジアは柄の上部に散在し, 35-70  $\times$  7-10  $\mu$ m, こん棒形~類円柱形。全ての菌糸はクランプを欠く。

供試標本: 神奈川県小田原市入生田丸山, スダジイとミズキを主な構成樹種とする広葉樹林内の地上に群生, 2001年9月8日, 高橋春樹採集 (KPM-NC0008735)。小形で全体に鮮橙色を帯びた可憐なもので, 顕微鏡的にはこん棒形の縁シスチジアを有し, 側シスチジアを欠き, クランプを持たないのが特徴である。子実体の大きさと色合い, 並びに孢子の大きさにおいて多少地域的な変異が見られ, Hesler (1967) の記載による北米産の標本は, 子実体が日本産のものより大型(傘の径21-40 mm)で黄味が強く, 孢子はやや小形(7-10  $\times$  5-7  $\mu$ m)である。属内ではアオエノモミウラタケ亜属 (*Leptonia*) に置かれている。



図4. ダイダイウラベニタケ *Entoloma farlowii* の子実体 (作画は沢田美美子氏による)。

#### 謝辞

この報告をまとめるにあたり、小田原市入生田において調査の機会を与えて頂いた生命の星・地球博物館の出川洋介博士に厚くお礼申し上げます。また貴重な絵を提供していただいた沢田美美子氏に深謝いたします。

#### 文献

- Brandrud, T. E., Lindstrom, H., Marklund, H., Melot, J., and Muskos, S. 1992. *Cortinarius* Flora Photographica (English version). vol. 2. B25. *Cortinarius* HB, Matfors.
- Breitenbach, J. and F. Kränzlin. 1995. Fungi of Switzerland 4. Agarics 2nd part. 368 pp., Edition Mykologia, Lucerne.
- Hesler, L. R. 1967. *Entoloma* in Southeastern North America. 195 pp., Verlag von J. Cramer.

(沖縄県石垣市字大浜 284-1)